

中野区教育委員会会議録

令和4年第4回定例会

令和4年1月28日

中野区教育委員会

令和4年第4回中野区教育委員会定例会

○日時

令和4年1月28日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時13分

○場所

中野区立教育センター 研修室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 村杉 寛子

教育委員会委員 田中 英一

○出席職員

教育委員会事務局次長 青山 敬一郎

参事（子ども家庭支援担当） 小田 史子

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

濱口 求

指導室長 齊藤 光司

学校教育課長 松原 弘宜

子ども教育施設課長 塚本 剛史

○書記

教育委員会係長 香月 俊介

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 村杉 寛子

○傍聴者数

7人

○議事日程

1 協議事項

(1) 子どもの読書活動について

○議事経過

午前 10 時 00 分開会

入野教育長

それでは、定足数に達しましたので教育委員会第 4 回定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、村杉委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

ここで、お諮りいたします。

本日は株式会社ジェイコム東京から、取材のため、教育委員会の会議を撮影したい旨の申し出がありました。

会議を撮影する場合には、教育委員会の承認を受ける必要がございます。

これを承認したいと思いますのですが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、会議の撮影を承認することに決定しました。

なお、撮影に当たっては、会議に差し支えのないように行っていただきますようお願い申し上げます。また、傍聴の方の撮影をされる場合におきましては、個別に了承を得てから行っていただきますよう、お願い申し上げます。

さて、本日開催いたします地域での教育委員会は、中野区において開かれた教育行政を一層推進するために、区役所以外の場所に会場を移して開催しているものでございまして、今回で 38 回目の開催となります。

会議の進行につきましては、通常の教育委員会と同様に進めてまいります。本日の協議事項の「子どもの読書活動について」の終了後、会議を一旦休憩いたしまして、協議のテーマその他教育に関して、傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

<協議事項>

入野教育長

協議事項、「子どもの読書活動について」を協議いたします。

初めに、子ども・教育政策課長から、全体的な取組について説明を受け、その後、教育委員の皆様からご意見を伺い、協議を進めていきたいと思っております。

初めに、事務局から説明をお願いします。

子ども・教育政策課長

それでは私のほうから子ども読書活動の現状についてご説明をさせていただきます。

まず中野区が取り組んでおります「ブックスタート事業」、こちら見本の写真等、掲載してございますが、こういった事業を昨年度から開始をしております。

右側の風景がお渡し会というものでございまして、小さいお子さんの本をお配りするときに、本の紹介などをさせていただいているという事業でございます。

具体的に申し上げますと、対象が0歳児、産まれてまだ間もないお子さんに対して、絵本に親しんでもらうきっかけづくりということで、区立図書館等で配布をしております。

実際にはすこやか福祉センターや医療機関で3、4カ月の乳児のお子さんの健診の際に、通知の中にブックスタートの引換券を同封してございまして、その引換券を持って、図書館等に来ていただくという取組になってございます。

開始したのが、昨年度の10月から半年間でございます。

右側の表のほうは、今年度4月からの実績を12月24日時点まででございますけれども、記載をさせていただいております。窓口と、それからお渡し会、合計で822件、今お渡しができている状況です。

ちなみに昨年度は10月から502件でしたので、半年以上実績があるということは当然なのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で5月から8月はお渡し会が実施できず、窓口のみの配布としてございましたけれども、実績としては伸びてきているというところでございます。

この事業について、中野区の特徴をお伝えいたしますと、多くの自治体でこういった事業、取組をしております。ただ、割と、健診の会場で本を渡すだけ、窓口で配るだけというような自治体も多くございますけれども、中野区の場合は図書館に来ていただいて、そしてそこで紹介をしたり、お渡し会を通じて本に親しんでもらったり、読み聞かせの大事さですとか、その後の図書館の利用につなげていくというような、そういったことのきっかけづくりとして実施をしているものでございます。

セカンドブック事業という形で、少し年齢が大きくなって、幼児になったお子さん向けの事業などを実施している自治体もございますので、これについてはもう少しまた研究をしていく必要があるかなと思っております。

中野区の子ども読書活動推進計画というのがございます。今現在は第3次の計画を進め

ているところをごさいますして、その計画の目標を、四つほど記載をしてごさいます。子どもが区立図書館などを利用して、読書を楽しんだり、知識を得たりしているということ。学校図書館の活用等によって、子どもの思考力、判断力、表現力が向上している。地域のボランティアの方のお力をいただいて、本と子どもたちを結びつける、そういった役割を担っていただいている。あと、図書館、家庭・地域、学校が子ども読書活動の取組に向けて連携しているという目標を定めております。

こういった目標に向けていろいろ取組をしている中で、第3次の計画の中で達成指標というものを定めております。表にあります五つの指標を設けて、その実績を平成27年度実績と、それから令和元年度実績、一番右側のところで成果を見てきてごさいます。

当初、第3次の計画を定めたときの令和3年度目標というものを真ん中の枠に設けておりますので、そこを目指して取り組んできた成果がどこまで達成できたかという目安をご確認いただければと思います。一番上の「児童・生徒の不読率」、小学生や中学生のお子さんが本を1冊も読まないということがないように、0%という目標を立てて、取組を進めてきております。これについては、27年度実績から若干よくなっている。中学生についてはかなり改善もありますけれども、小学生のほうとしては横ばい傾向、その下の「児童・生徒の読書冊数」、これは1カ月にどれぐらいの冊数を読んだかという目安ですけれども、これについては小学生が1冊ほど伸びておりますが、これもほぼ横ばいという経過がごさいます。「授業以外での学校図書館利用割合」ということで、学校の図書館をどれぐらいのお子さんが利用しているかということなのですが、これについては、若干数字が落ちているという傾向がごさいます。こういった指標に向けては、今後も力を入れて取り組んでいく必要があるだろうというところを認識してごさいます。

一方、その下の二つの枠ですね。このところについては、上段のほうボランティアさんの協力を得て実施している事業の数ですとか、一番下は図書館、家庭・地域、学校が連携して取り組んだ読書活動の取組の事業数です。これについては目標を大幅に上回って、既に令和元年度の実績がかなり成果として上がっておりますので、中野区の取組の強みと言いますか、特徴としては、こういったところのお力はかなりいただいていると考えているところでごさいます。

実際の事業の主なものをご紹介ということで、児童館ですとかキッズ・プラザ、こういったところで、地域の方の、ボランティアさんなどの読み聞かせなどをしていただいたりですとか、あと小学校・中学校、こちらでもいろいろな大学ですとか、あるいはボランティア

さんによるいろいろな取組といったところを学校も取り入れて、子どもたちの読書の活動に向けて、力を入れていただいているというところがございます。

次に、学校図書館の概要を少しお話しさせていただきたいと思います。ご承知のとおり、学校内にあります図書施設、こちらについては本を読むということに加えて、情報を得たり学習をしたり、それから中の施設については、活動として朝読をするですとか学級文庫、それから展示などによるブックトークやビブリオバトルなどの、そういった事業的な取組もしているということで、様々な場面で施設を活用いただいていると思っています。

それから、「中野の 100 冊」ということで、児童・生徒に読んでいただきたい、そういう本を紹介するようなコーナーも設けて、周知を図っているところがございます。

下の赤字で書いております学校図書館指導員、こちらを全校に中野区の場合は配置をしております、1週間に4日、1日4時間という限定的な時間数ではございますけれども、専門の方を配置して、子どもたちの読書活動を推進する取組をしてございます。これについては、来年度、今検討しているのは、夏休みについてもこういった方の配置をして、普段夏休みに活動がなかなか滞ってしまいますけれども、読書などの児童・生徒のそういった活動にも力を入れていきたいと思っております。

簡単に「中野の 100 冊」の一部を紹介したもので、皆さん方も読んだことがある本が載っているかと思えますけれども、子どもたちにこういう本を紹介しながら、手にとっていただくようなきっかけを投げかけているというものでございます。

次に学校図書館の蔵書数や貸出冊数の表です。部門別という形をとっております、0門から9門ということで、それぞれどういった分野の本があるかということ割合を示させていただきます。

一番右側にある9門、文学ですね。小説ですとかこういったものが割合として多くなっておりますけれども、当然、小学校・中学校では学習などにも使いますので、2門の歴史ですとか3門の社会科学、それから4門の自然科学など、こういったところの活用も大事な要素かなと思っております。

全体の割合ですとかをご確認いただきながら、下の表、円のグラフが小さくて、読み取りにくくて申し訳ないのですが、全体を100とした場合の小学校・中学校の学年による貸し出しの割合を記載してございます。思っていたとおりというか、学年が上がるほど、貸し出しの割合というか、人数が全体としては少なくなるという傾向にありますので、年齢が上がると忙しくなったり、あるいはほかの活動に使う時間が増え、図書、どうしても離れてい

くという傾向があるのかなと思っているところでございます。

それから学校図書館蔵書の出版年別割合ということで、新しいか古いかということをも簡単に割合として記載している表になります。

0門から8門、専門的な本と9門の小説や絵本と分類を分けてございますけれども、全体として古い本が多いと認識してございます。ここは改善をしていかないとよくないのかなと思ってございまして、10年以内、20年以内の表、例えば9門の10年以内、20年以内を足すと、大体5割に近い。小学校で言いますと、5割に届いていないというようなパーセンテージになっていますので、半分以上の本がもっとそれ以上、21年以上のもの。一番古いものと60年と、相当昔の本なので、こういったところについてはどうなのか。特に先ほど申しあげました歴史や社会科学や自然科学といったような研究をするような場合には、本が古いと情報も変わってきていて、正しい情報がキャッチできないということも課題としては起こり得ますので、そういったことについては、なるべく新しい本の購入や、入れ替えが必要だと思っているところでございます。

次に区立図書館の蔵書数と貸出冊数を書かせていただきました。こちらについては、全体の人口に対しての区民の登録者数で、その割合と、10歳未満と10歳代ということで分類をしております。

この傾向といたしましても、一番右が2000年度、一番左側が2020年度ということになっておりますけれども、蔵書数などは増えております。増やしてきているということが読み取れるのですが、ただ貸出冊数ですとか貸出人数、これが数字としては減ってきているということがありますので、計画を立てて、読書活動の取組をしてきてございますけれども、まだまだそういったところの努力が必要なのかなというところでございます。

参考までに、先ほどは10歳未満と10歳代という分類でしたが、もう少し内訳を参考として書かせていただいたのが、未就学と小学生・中学生という割合で、登録者の割合がどうかということと、それから2年度の貸出冊数を記載しておりますので、参考にお読み取りいただければと思います。

中野区の現状は今お話をさせていただいたとおりなのですが、では23区、都内の他の自治体と比べてどうかというところでは。

右側の14番のところ、少し黄色に反転をしておりますが、中野区の実績がございまして。0から14歳の人口の割合に対して児童の蔵書冊数が何冊ぐらいあるかということで、中野区の場合は1人当たり6.8冊ということなんです。ほぼ真ん中ですね。中位、12番目で、23区

中本当に真ん中ぐらいです。

一方、児童図書の貸し出し、これは何冊かというと 11.3 冊になるのですが、これは残念ながら下から 2 番目ぐらいになっていたと認識しています。一番多いのが文京区で、これが 36.7 冊ということになっていますので、中野区の 3 倍以上貸し出しを、文京区のお子さんはしているということになりますので、そういったところで中野区としては少し力を入れていかなければいけない。本はあって、登録はしていただいているのですけれど、貸出冊数が伸びていないということが課題だと分析をしております。

区立図書館の事業、先ほどいろいろご協力をいただきながら、学校でも様々取り組んでいるというご紹介をいたしましたけれども、区立図書館でも様々な事業をして、働きかけを行っております。

小さいお子さん向けの「おはなし会」ですとか、あと季節行事的なもの、あと平和に関するような、そういったテーマを持った読み聞かせなども行っているというものでございます。

それから、これは江古田区民活動センターで実施をさせていただいている地域と学校が一緒になった取組で、最近読んだ本の中で、この本を誰かに読んでほしい。いい本なので、ぜひ読んでほしいというような紹介をする「読書ゆうびん」というもので、かなりの数の「ゆうびん」が届いて、それを区民活動センターのほうに掲示していただいているということで、区民活動センターを利用した方の目にも触れますし、それをきっかけに新しい本を知って、読みたいという興味を抱いてもらうという、そういういい企画かなと思っております。近くの江原小学校、江古田小学校、それから第七中学校、小中連携も含めて、こういう地域で一体となった取組があるということで、ご紹介をさせていただきました。

それから、真ん中の図が、地域開放型学校図書館、こちらは今年度の 4 月 20 日に 3 カ所の地域開放型学校図書館をオープンいたしました。みなみの小学校と中野第一小学校と美鳩小学校、この三つの学校の中に学校図書館と、それから地域開放型の部分と、合わせたそういうライブラリーを立ち上げたということでございます。

施設としては小さいのですけれども、キッズスペースがあったり、小さいお子さんがゆっくり絵本などを読み聞かせできるような、そういったスペース、そういった方向けの本なども設けております。もちろん一般の大人の方が読んでいただけるような本もそろえておりますので、近くにそういった施設があることで、利用していただきたいというもので開設をしております。

このライブラリー3カ所の蔵書については2,000冊ということで、決して数は多くないのですが、近くにあるということで、今年度の実績としてかなり利用いただいているという状況でございますので、もし、お近くをお通りの際はのぞいていただければと思います。

その三つのライブラリーの利用実績をまとめさせていただきました。4月20日から11月30日までの利用実績です。

年齢、未就学、小学生、中学生、一般という形で分けて、上段のほうには各施設の利用実績を載せています。

美鳩ライブラリーについては、近くに区立図書館がございませんでしたので、数としては大きく伸びているという状況です。

図書の貸し出しについても、自館、他館と分類していますが、自館というのは、このライブラリーの中にある本を貸し出しているというもので、他館というのは、ほかの区立図書館などからの本を取り寄せて、そこで受け取るということになりますので、自館、その施設にない本でも、他の区立図書館から読みたい本を届けさせて、手にとることができますので、そういった利用にもつながっていると思っております。

それから、今皆さんにお出でいただいておりますこの施設の中に、中野東図書館がございます。7階から9階の3フロアで、来週になりますが2月1日にオープンいたします。蔵書の数が17万冊ということで、中央図書館の次に大きな図書館となります。閲覧席が313ということで、これは一番多くなる予定ですが、図書を読む。それから学習をする。そういったことも当然できますし、資料にありますビジネス・コミュニティフロアというのが9階にございますが、そういう会社関係の情報ですとか、これから起業などを考える方がいろんな情報を得るためのコミュニティスペース、それから会議などもできるような、そういったつくりになっておりますので、いろんな幅を持たせて利用いただきたいと思います。

右側の写真が、今日入り口でごらんになった方もいるかと思うのですが、これは中野東中学校、同じ建物内にあります中学校の生徒さんに、オープンを記念して、入り口のところにこういったすばらしい絵を描いていただいております。図書館の宣伝も兼ね、同じフロアに中学校もありますので、そういった生徒さんたちのコラボレーションということで企画をしていただいて、描いていただいておりますので、もしごらんになっていない方は、帰りにまた見ていただければと思います。

フロアの詳細について、7階が子どものフロアになっておりまして、絵本ですとか児童

図書、これが中心になって備わっております。読むスペースはもちろんあるのですが、ゆっくりくつろいで横になったりですとか、あと小さいお子さんが来たときに、ごろごろ寝そべったりできる。そういったスペースも持っておりますし、コンセプトとして、このフロアは、声を出していいということで、今までどちらかという、小さいお子さんが図書館に行くと、大声を出したり泣いたりして、周りの方から苦情になるようなこともありますけれども、こういうフロアをつくることで、小さいお子さんをお連れのご家庭の方にも利用いただきたいと思っております。

今お話ししたような、館内で声が出せます。それから飲食可能なスペースがあります。閲覧席などで自習ができますということで、利用の幅を広げていこうという狙いを持っております。本を読んで、もちろん読んでいただきたいのですが、読むというだけではなく、いろんな目的を持って来ていただいて、楽しんでいただいて、ご家族などで一緒にゆっくり長い時間過ごしていただく。そうすると、図書館のことが好きになって、本もいろいろ見ることができるようではないかと思っておりますので、そういった図書館になっていけばいいなと思っております。

先ほど第3次の子ども読書活動推進計画の紹介をさせていただきましたが、実は来年度から新たな第4次計画を策定するというので、今準備をしているところでございます。第3次までの計画の実績、それから課題などを踏まえて、目標としておりますのが、「より多くの子どもが、読書を楽しみ、多様なあり方・知識に触れている」。それから「学校図書館が質的・量的に充実し、授業等に活用されるとともに身近な図書館として機能」している。それから「様々な人が、様々な場面や場所で、読書活動を広げる試みを進めている」、この三つを今考えてございます。

そういった計画の目標を達成するための視点といたしまして、こちらに書かせていただいております五つの視点、特に一つ目は「読書は楽しい」、こういったコンセプトは引き続き大事にして、手にとるきっかけを持っていただきたいと思っておりますし、学校図書館の積極的な活用と充実といったところも大事かなと思っております。そのほか3、4、5とございますので、お読み取りいただければと思います。

第4次の子ども読書活動推進計画についても、指標を設けさせていただいております。こちらについては、五つの指標といたしまして、やはり本を手にとって読んでいただくということで、区立図書館ですとか、学校図書館の貸出冊数、こういったものを、実績を踏まえながら、令和8年度目標というものを少しずつ上げていくということで設定をさせてい

ただいております。

それから学校図書館の図書標準達成率、学校図書館に本がこれぐらい必要だという文部科学省の標準の目安があるのですが、この割合が今、小学校 77.3%、中学校 40%ということで、東京都の平均、小学校は若干平均より上回って、中学校は平均より少し下回っているというところだったかと認識しておりますけども、これを上げていこうという目標にしております。

それから下の二つについては、これまで同様、様々な事業数、既に目標を上回る実績がありましたので、令和 8 年度目標を掲げて取組を継続していくというものでございます。

こういった活動を進める上で、主な取組、それぞれ年代別に様々なあるのですが、乳幼児については、主なものを書かせていただいて、継続していくもの、それから今までやっていたけれど、数を増やすなどの拡充を図るもの、それから新規としてこういった仕掛けをさらに増やして、取組を推進していきたいと考えております。

下の枠の中には、中学生やそれから小学生のための取組、これ以外に多くありますけれども、主な新規のものを少し書かせていただいています。

最後に今後に向けてということで、簡単なコンセプトを書かせていただきましたが、区立図書館、いろいろ機能も増やしておりますけれども、今までは待ちの姿勢で、どちらかというと、来館いただいて、読んでいただいて、お帰りいただくという、そういう図書館が普通の運営になっておりましたけれど、様々な子どもの関連施設ですとか、もちろん学校もそうですし、外に出ていくような取組をして、図書館の利用ですとか、本のよさを理解していただくような外向きの投げかけが必要かと思っております。

それから学校図書館については、本を新しくしていく必要があるという、課題がありましたので、そういったところを積極的に進めていきたいと思っておりますし、併せて学校のほうには、いろんな団体の方や連携した事業がたくさんございますので、さらに門戸を広げると言ったらあれなのですが、いろんな方に来ていただいて、利用しやすいような、そういった図書館になっていけばいいなと思っております。夏休みなども図書館指導員の配置も検討していくということがございますので、そういった取組を併せて、子どもたちに読書は楽しいという体験をしていただきたいと思いますところがございます。

私からの説明は以上でございます。ありがとうございました。

入野教育長

ただいまの説明や協議テーマに関しまして、ここで教育委員の皆様から、質問や感想な

ども含めてご意見を伺いたいと思います。ご発言はございますでしょうか。

田中委員

説明ありがとうございました。いろいろな仕掛けから子どもたちが読書を身につけるよ
うにという取組をこんなに幅広く行っているというのを改めて知りました。

一つ教えていただきたいのですが、学校、主に小学校ですけれども、どんなふうに子
どもたちに本を読むということについて教えているのか。授業の中で教えているのか、あ
るいは図書館の利用の授業があるのかとか、その辺の現状を教えていただければと思いま
す。

指導室長

学校では、基本的には週に1回図書の日というのを設けておまして、その中で子ど
もたちがいろんな本に触れると。先ほども話がありました図書館指導員という方々にも、
もちろん学校図書館の整理もそうなのですが、子どもたち向けに本の魅力というものを伝
えてくれています。

また中学生ぐらいになりますと、朝の読書活動という、短時間ではあるのですが、
子どもたちが自分の興味のあるような本を持ってきて読むといったような活動を通して、
いろんな子がいろんな本を読んでいますので、そういう中で子どもたちも、また普段接し
ないようなジャンルの本も目にしたりすることで、いろんなところに興味を感じる、広げ
ていくといったような活動を行ってございます。

田中委員

少なくとも週に1回はそういった授業をやりながら、子どもたちに本を読む楽しみとい
うのを伝えていっているわけですが、それがさっきの報告で言うと、忙しくなったり
して、図書館の利用率が少し下がっていくという話がありましたけれども、そういう中で、
最近G I G Aスクール構想で、みんな一人一人が端末を持っている中で、それを利用して、
例えば中野区の図書館で、電子図書サービスをして、子どもたちがアクセスしやすいよ
うな状況にするという、その辺の見通しはどうなっているのでしょうか。

子ども・教育政策課長

タブレット端末を使って、なかなか電子書籍を読むところまでは難しいというの
が現状かと思っております。区立図書館も同様なのですが、将来的にはそういったことの
検討もしていく必要があるだろうと思っております。

ただ、当面考えられることといたしましては、例えば先ほどの本の紹介ですとか、ブック

リスト的なものですね。そういったものをタブレットなどに配信することで、こういった本がありますよというご紹介の関わりみたいなのは、学校とは連携ができるのではないかなと考えているところでございます。

田中委員

その辺もぜひ、せっかく子どもたちが端末を持っているので、うまく利用してもらえればなと思います。

それに関連してもう1点だけ、さっき東京都の中で非常に貸出数が多い文京区とか、豊島区もそうですね、30%を超えているのは。そういうところは、例えば電子図書サービスみたいなものを既にしていて、利用が高いということが数字に関係しているのかどうかということがもしあれば、最後に教えてください。

子ども・教育政策課長

他の自治体も電子書籍については研究をしていたりですとか、一部導入といった自治体もございます。ただ絶対数としては、やはりまだ紙ベースの書籍が大半ですので、そこが大きく影響しているとは捉えてございません。

ただ文京区などの取組を見ますと、本の読みやすい環境、新しい本ということも魅力的なところではあると思いますし、あるいは小さいころから本に親しむ関わりみたいなのが大事になるのかなと思っておりますので、中野区も、他の自治体を参考にしながら、取組をしてまいりたいと考えております。

田中委員

ありがとうございました。

伊藤委員

「ブックスタート」も皆さんに集まっていただくお渡し会というのを図書館でされたり、図書館での受け渡しということで、そういう小さな工夫がすごく役立っていくのではないかなと思いました。

また様々な事業、その他小学校・中学校さんと、近くの音楽大学とのコラボレーションですとか、本の帯コンクールですとか、様々な活動があつていいなと思いました。

最近、文京区の図書館を拝見するチャンスがあつたのですけれども、施設が新しいということもないのですよね。施設も別に魅力的ではないというか、古いですし、なのですけれども、蔵書の数全体として多いということもそうですが、例えばホームページを拝見すると、スマホなどでも非常に見やすくなつていて、いろんな本の表紙が流れるようになつ

ていたりして、そのときどきに話題の本とか、あと何かテーマを設けて、流れる本の中に何かが入ったりして、ふと見て私なども、今度こういう本を見たことがないけれど、手にとってみたいなどと思わせるような小さな工夫というのがありますし、あと、先ほどの事業は学校中心でしたが、文京区の場合は、たしか年末年始のあたりで地域の芸術家の方の絵画の原画展。絵本になっている作家さんの原画展で、その方がお近くにお住まいということで、その方のインタビューも、QRコードがついていて、そこにアクセスすると見ることができて、こういう原画からこの絵本ができて、そこをこんなふうに著者は語るのだみたいなことが、図書館に行くとかわかったり、図書福袋で、最近はやっていると思うのですが、本を借りるまで中身がわからないけれど、新しい本に出会えるという、多分そういう発想だと思うのですが、そのような事業を行っていたり、何が言いたいかという、大人も楽しめるような。あとコンサートですとか様々な講演会とか、ずっと企画があるようですので、そういった学校の中での近隣との事業だけではなくて、図書館が地域の人たちに対する情報発信ということ、多様な形でしていらっしゃるなということ、思うのです。

ですので、中野区はどういうことが中心になってまちづくりがなされているのかという、そういう構造的な違いもあるとは思いますが、本を買うだけではなくて、それを介した活動ということ、積極的に考えていただくのも一つ大事なのかなと思いました。ですので、もし図書館がやっているような事業みたいなことで、地域と連携してというのがあったら、教えていただきたいなとも思いました。

あともう1点、学校での活動の話が出ましたが、やはり蔵書の数は限りがあると思うのです。ですが、それを他館から借りてくるということをお考えすると、せっかくアプリがあるので、例えば読書の時間に校内の本だけではなくて、あえてアプリというか、インターネットを使って、他館のものを検索して借りてみようという活動ができれば、おうちでも興味があるワードを入れて借りることができ、授業の中でも何かキーワードを入れて、インターネット上で調べるだけではなくて、それに関する書籍を中野区内の図書館から借りるということもできると思うので、そういう練習をしてみるとか、先ほどのお話にはなかったですが、図書委員さんという人たちが司書さんと一緒にいろんな活動をしていると思いますので、そういった各学校の図書委員さんの活動をもう少しアピールできるような、インターネットを使ってアピールするようなこともあるかもしれませんし、今回新しく、教育環境がインターネットによって随分変わってきましたので、図書館の活用についても、積極的に新しい取組をもっともっと考えていただけると楽しいかなと思

ました。

以上です。

岡本委員

子どもの読書活動なので、子どもが主体的に関われる場面ができるだけ多くあればいいなど考えています。その点からの発言です。

「中野の100冊」なのですが、今ここに資料として挙げていただいているものを、子どもたちに見せているのでしょうか。それとも別のパンフレットの的なものがあるって、それを子どもたちは見るようにしているのでしょうか。それを教えていただけますか。

指導室長

実はこの「中野の100冊」、今年度改定の作業を進めているところであります。これは教科書が変わるタイミングで、内容等の見直しをかけております。これまでの様々な本から、半分以上新しい本に入れ替えて、また子どもたちに違った本を紹介できるような、そういう機会にしています。これは各学校でも図書館の中に、この「中野の100冊」のコーナーをつくっていただいたりですとか、子どもたちも普段の生活の中で目に触れるような様々な工夫をしております。

先ほど図書委員のお話も出してくださいましたけれども、図書委員などを中心にしながら、子どもたちの目に触れるように、教育委員会でも決まった時点で、子どもたち用に配布をして、周知を図っていきたいと考えています。

岡本委員

ご説明ありがとうございます。わかりました。

もうつくられていたらあれなのですけれど、ずらっとタイトルと著者名だけだと、何の本かわからないですので、ちょっとでも内容の説明があったほうが、よりとっつきやすいのかなと思いました。

そして、その際に、図書委員さんのお話がありましたけれど、例えば中学生用なら、各校の中学生が、この本はこういう本なのですよということを説明できるようなコーナーがあればいいのかなと思いました。中学生が読んで、同じ世代の中学生にこういう本ですよとアピールできる。それが、図書委員さんにとっても、中野じゅうの学校に、自分たちのが広まれば意欲にもつながりますし、またもちろん直接的には思考力や表現力の育成にもつながるものかなと考えました。もしも、もうつくられていて、間に合わなければ、各校でコーナーをつくっていただくときに、そういうのもしてくださいというのも一つかなと思いま

した。

それと関連して、地域事業のほうで、子どもの選んだ、よかった100冊というのをされるということで、こちらも期待したいところです。「中野の100冊」という既にあるものもいいのですけれども、今の子どもが読みたいと思う本を子どもに教えたいというのであれば、やっぱりそれは子どもが選ぶべきですよ。大人が選ぶ本は、子どもに読ませたい本ですよ。もちろんそれもあっていいのですけれど、これ読んでほしい、これ読んだら、大人になるために、いろんな知識つきます、いろいろなことを考えられますよというのでもいいのですけれど、スタートとしては、やっぱり子どもが読みたい本という観点もあっていいと思うので、ぜひこちら推進していただきたいと思います。

また、その際に同様に、子どもの推薦文やアピールポイントなどがあれば、こういうものなのだと、子ども同士でわかるのかなと思いました。

もう1個、それとの関連で、同じ新規事業で中高生による図書館活性化プロジェクトというのがあったのですけれど、これは具体的にどういうもの考えていらっしゃるか、教えていただけますか。

子ども・教育政策課長

こちらの事業については、まだ具体的な詳細はこれからというところですが、図書館の運営をしております事業所といろいろと調整をしております。中高生、若い層の生徒さんたちが興味を持つような、そういう声を把握しながら、いろいろ仕掛けをしていこうかということで、プロジェクトを立ち上げたいということです。

参加者を募集して、実際に中高生の意見なども聞きながら、そういった企画をして、利用促進につなげていくということで、これから内容については詰めてまいりたいと考えてございます。

岡本委員

ご説明ありがとうございます。ぜひ期待したいのですけれど、今おっしゃったみたいに、中高生もその中に企画の段階から関わっていただきたいなと思いました。ありがとうございます。

村杉委員

熱心な取組ありがとうございます。小さい子どもを連れてお母さんたちは、読み聞かせで声が出たり、子どもが泣いてしまうということもありまして、以前はすごく図書館は静かなところでしたので、行きにくかったと思いますが、今回の7階のようなスペースがあ

りますと行きやすくて、本好きな子どもが育つといいなと思います。

一つお伺いしたいのですが、第4次子ども読書活動推進計画のほうでも、多様な子どもたちに配慮したということがありますが、視覚障害や聴覚障害の子どもたちの、例えば点字の本ですとか、音声の読書ですとか、そのあたりについて教えていただければと思います。

子ども・教育政策課長

そういった多様な方への取組ということで、様々これまでも行っているところではございますけども、バリアフリー絵本の展示ですとかそういったPRをしたり、あるいは布絵本の収集、貸し出し、それから作成の講座など、そういった取組も少し工夫してまいりたいと思っております。

併せて、音声読み上げ機は、デイジー図書の再生機と申し上げますけれども、こちらの台数なども増やして、そういった方がより利用しやすいような環境を整えてまいりたいと考えているところでございます。

伊藤委員

今点字などのお話がありましたけれども、そういったものも小学生や中学生は、いろいろな方を理解するきっかけにもなると思いますし、相互理解とか新たな方法の発見とか、想像ということにつながると思いますので、ぜひ学校の授業の中でもそういう読み上げのをやってみるとか、点字図書をみんなで触れられるように、1週間その部屋に置いておくとか、そういった積極的な取組もしていただけるといいなというふうに思いました。

あと今本当にいろんなことができると思うのですよね。例えば集計のことがうまくいけば、何とか中学校で今一番貸し出されている本はなにで、別の中学校ではこれがベストテンとか、中学校によってベストテンが違うとか、面白いではないですか。そういった多様な取組ができるなと思いますし、あと学級文庫みたいな形で、学校図書館は区立図書館から本を借り、またそれを学級文庫みたいな形で借りて、時限的にその学級がお店を、本屋さんを出すみたいな形で本を出してみるとか、楽しい取組がたくさんできると思うのですが、2点あって、そういうことを考えたときに、学校図書館指導員の方がパソコンとか、そういったことを使いやすくなっているのかなということと、週4日の4時間ってとても、他区に比べても充実していると認識しておりますが、さらにそういったいろんな活動をするに当たって、このお時間で十分なのかなどと思ひまして、そのあたりどんな状況か、教えていただければと思ひました。

指導室長

私のほうから学校図書館指導員の子どもたちへのアプローチといたしますか、そのあたりの時間のことを説明させていただきたいと思います。

1日4時間という時間ですので、各学校で校長のほうが、どの時間帯に来るかというのを相談して決めることになってございます。小学校は午前中が多い傾向がございます。中学校の場合は、どうしてもお昼休みですとか、図書委員の活動なども放課後ということがありますので、比較的遅い時間に来て、子どもたちと関わっているということになっております。

4時間、結構フルに子どもたちと触れ合ってもらっているようなケースが多いので、なかなかそういう中で、図書館の中の整理などに時間を使うのは難しいなんていう声も上がっていますので、このあたり有効活用している学校の事例などを、また区内のそれぞれの学校のほうにも伝えていきたいと考えてございます。

子ども・教育政策課長

私のほうから、システムについてのご質問にお答えをさせていただきます。

学校図書館指導員の方も、学校図書館のそういったデータを把握している一方、区立図書館のシステムと連携してございますので、区立図書館の蔵書ですとか、今提案いただいた貸し出し、区立図書館の本を学校のほうに取り寄せて、子どもたちに紹介したり、貸し出すということも、実際できる体制はとってございますので、一層、今ご提案いただいたようないろんな仕掛けを調整、研究をさせていただいて、学校のほうの内容も充実を図っていただくよう、お願いしたいと思っております。

岡本委員

今のいろんな仕掛けと関連するかもしれないのですけれども、第4次子ども読書活動推進計画の中で、②で「学校図書館が質的・量的に充実し、授業等に活用されるとともに身近な図書館として機能」というのが掲げられていました。もちろん学校図書館、本来的な機能としてとても大切なことだと思うのですが、例えば各校でもそれぞれ総合的な学習の時間や、探求的な学びを進めていらっしゃると思います。調べたいテーマがあって、それを図書館に行って調べようと思っても、そのテーマの本がないということであれば、そこで子どもたちの学習への意欲がしぼんでしまうのかなと思いました。

そういう意味では、より各校のカリキュラムと学校図書館と連携ができるような、うちの学校は今年度こういう総合的な学習の時間のテーマをするので、こういう本が必要だ

ねってということは、学校図書館司書さんと連携ができて、そういうものをほかの学校や区立図書館等からも共有して、蔵書を一定程度そろえられたりとか、あとは校内でそういう選書ができるような仕組みにしていったり、そういったことも今後検討できるのかなと考えました。

以上です。

入野教育長

確かに先ほどの読書のセンターだけではなくて、学習や情報のセンター的な役割を、図書館にという状況が生まれてきておりますので、よりそういう部分は大事なかなと思いますし、現実には、私も学校におりましたときにやっておりましたが、学習に使える本を今年は重点的に置こうとか、学習が始まる前に、区立図書館でそれに関する本をたくさん貸し出ししてほしいとか、そういうことはやっている学校もあるかと思いますが、さらにそういうことがやりやすくて、充実していけるような方向は考えていかなければいけないかなと思っております。

ほかにございますでしょうか。

岡本委員

最後のほうでご説明のあった「区立図書館は外にでます」という、あれの、具体的なイメージなりこういうことですよというのが、もしもあれば教えていただけますか。

子ども・教育政策課長

取組といたしましては、既に実施している部分もございませけれども、児童館ですとか、あと子ども関連施設、それから様々なご要望があったところに、図書館のいわゆるスタッフが外向いて行って読み聞かせをしたり、あるいは本を紹介したり、それから場合によっては読み聞かせのやり方というのでしょうか。ご紹介をするなどして、そういった形で図書よさですとか、子どもたちに触れていただく機会の提供を少しでも広げていただくという取組をイメージしてございます。

岡本委員

ソフト面というところですね、そうすると。ハード面でということは特にはないですね。

子ども・教育政策課長

具体的なハード面といいますと限定的で、先ほどご紹介した中野東図書館のそういったところで飲食をしたり、おしゃべりをしたり、絵本の読み聞かせのフロアも設けておりますので、そういったところの紹介ですとか、先ほどご提案いただきましたホームページな

どでそういったことを紹介していくといったようなことも組み合わせて、周知を図っていければと考えてございます。

田中委員

今の、図書館の役割は、読書だけではない。多様化しているという話が出ましたけれども、達成目標というか、目標値のところの本の貸し出しだけではなくて、例えば中学校だったら1日何人利用者があったとか、そういう図書館の活用状況みたいな指標が、もし可能ならばあってもいいのかなと感じましたので、検討いただければと思います。

岡本委員

今のと関連してなのですけれども、貸出冊数もあっていいのですが、多分たくさん読む子はたくさん読むと思うのですね。読まない子は全然読まないと思うのです。なので、たくさん読む子がその年にたまたまいれば、それだけで貸出冊数上がる可能性があるのかなと思いました。

不読率の調査もされていたので、なかなか本を読む機会がない、親しみが持てなかった子へのアプローチがより大切だと思います。読む子は放っておいてもという言葉は悪いですが、どんどん自分で学んで、読んでいかれるでしょうから、なかなか本に親しめなかった子へのアプローチという意味では、そういう調査があってもいいのかなと思いました。

ただ調査も難しいもので、やっぱり計画なので、ある程度達成目標は必要だと思うのですが、それに縛られ過ぎて、貸出冊数上がったからいいねではないと思うのです。本来の目的は、子どもの学びや成長につながることだと思いますので、それを念頭に置いた調査というものも、こうすればというのはあまり出てこないのですけれども、現状では、というのでもあってもいいのかなと感じました。

以上です。

村杉委員

先ほどに関連しまして、小さな子どもを連れてお母さん方が行けるような図書館は、この中野東図書館のほかには、中野区内はどちらかありますでしょうか。教えていただけましたら。

子ども・教育政策課長

当然図書館ですので、全ての施設をご利用いただきたいとは思ってございます。

ただやはり小さいお子さんですと、泣いてしまったり、声を出してしまうということがあって、なかなか使いにくいですとか、気を遣うということがございますので、中野東図書

館というご紹介をさせていただいたところでございます。

あと先ほど資料にも記載をいたしました三つの小学校内のライブラリー、こちらは施設が学校内にあって、規模は小さいですけれど、小さいお子さんが利用しやすいような環境ですとか、本の数をそろえておりますので、そういったところのご利用もいただければなと考えているところでございます。

伊藤委員

今のことと関連して、恐らく貸出冊数が非常に多かった文京区とか豊島区は、多くの図書館に小さくてもいいので子どもコーナーみたいな、絵本コーナーのところには靴を脱いで上がって、じゅうたん引きで寝そべったりとか、自由に行動ができるようなスペースが設けられているのではないかなと思っていますので、小さくても何かそういう子どもが歓迎されているということが、子どもや親御さんに伝わるような工夫は可能なのかもしれないし、その点についても追及していただけるといいのではないかなということを思いました。

あと、出版年の割合というお話がありましたけれど、そういう統計があるのかどうかわからないですけれど、ぜひ他区の状況とかも見て、どういった点が蔵書への貸し出しとか有効活用につながっているのかということは、引き続きご検討いただけるといいのかなと思いました。

以上です。

岡本委員

今の伊藤委員のご発言に付け足しなのですけれども、中野区の貸出冊数が増えないのは、もしかしたら蔵書の中で、古いものが多いからかもしれないですね。それが新しいものになると増えるかもしれないので、そういうことも今後、もし可能でしたら、調査の一環に加えていただければいいのかなと思いました。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは協議は終了したいと思いますけれども、終了するに当たって、少しお話をさせていただきたいと思います。

前回の教育委員会でも、開放型の図書館の成果ですとか、それから読書活動についても少しお話をしまいましたが、第4次の子ども読書活動推進計画の策定に向けま

しては、今日もたくさんご意見が出ました。引き続き、子どもの読書活動については、協議を行ってまいりたいと思います。また本日いただきましたご意見を踏まえながら、新たな視点もございましたし、深めていかなければいけない視点もあったかと思っておりますので、さらに子どもたちが今後読書に親しんでもらうための取組も進めていければなと思っております。

それでは本協議を終了したいと思います。ありがとうございました。

ここで会議を一旦休憩いたしまして、傍聴者の方々からもご意見などを伺いたいと思っております。

それでは、会議を休憩いたします。

午前 11 時 00 分休憩

午前 11 時 11 分再開

入野教育長

会議を再開いたします。

本日は、傍聴されているの方々からも様々なご意見をいただきました。ありがとうございました。

本日開催いたしました地域での教育委員会、なかなかコロナ禍でできなかったのですが、本日は今までの会場と違って、教育センターでやらせていただいて、直接地域に住んでいらっしゃる方々のお話を伺う機会という、地域での教育委員会の趣旨をしっかりと行うことができたかなと思っております。

今後もしろいろな意味で、地域の実情を知るためにも、やはり具体的にお話を伺うことが必要であると思っております。本日の会議は大変に有意義なものになったかと思っております。今後の教育行政に生かしていきたいと思っております。またこういう機会がございましたら、よろしくお願いいたします。

それでは、本協議を終了いたします。

最後に、事務局から、次の開催について報告願います。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会は2月4日金曜日10時から、区役所5階、教育委員会室にて開催いたします。

以上でございます。

入野教育長

以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。
これをもちまして教育委員会第4回定例会を閉じます。
ありがとうございました。

午前 11 時 13 分閉会